

科目名	中小企業論特講	担当者	ナガヤマ 長山 ムネヒロ 宗広	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>中小企業は、日本の企業数の99%を占めている。中小企業は、あらゆる産業分野・地域に存立し、日本の経済・社会において重要な役割を担っている。バブル崩壊後の長引く景気低迷の下、イノベーションの創出や地域活性化の担い手として、また雇用の受け皿として、中小企業の果たす役割に期待が高まっている。しかしながら、異質多元的な存在で多様性のある中小企業の実態はあまり知られていない。本講義では、中小企業の実態について、「問題性」と「発展性」の両面から統合的に把握していく。そして、現在直面する中小企業の経営課題と、それに対応する中小企業政策について学んでいく。</p>		
到達目標	<p>前期では、中小企業とは何かを学ぶ。中小企業の見方は、「厳しくリスクであるが多様な可能性に富んだ存在」として捉えられる。基本教材を利用しながら、中小企業の実態について、「問題性」と「発展性」の両面から統合的に学んでいく。</p> <p>後期では、中小企業政策について学ぶ。基本教材を利用しながら、中小企業政策の理念と実体、政策目的とその効果、政策対象（中小企業）と政策主体（政策の企画・実施機関）、悲観的中小企業観と積極的中小企業観、といった両面から体系的に学んでいく。</p>		
学修方法	<p>日本経済の時代背景といったマクロ的視点（鳥の目）と、個別企業や企業家の事例を通じたミクロ的視点（虫の目）といった、双方向のアプローチから中小企業の実態を考察する。また、日本経済の歴史の変遷といった「時間軸」と、グローバルとローカルの「空間軸」を意識して、中小企業の実態を捉えていく。</p> <p>基本教材を利用しながら、前期では、工業・商業・サービス業といった業種別の中小企業の実態を考察する。後期では、中小企業と政策機関の両サイドの立場から、中小企業政策を体系的に学んでいく。</p>		
スケジュール	<p>前期は、中小企業の実態把握に関する「レポート課題」を2回実施する。</p> <p>後期は、中小企業政策に関する「レポート課題」を2回実施する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	前期の2回のレポート50%、後期の2回のレポート50%
	平常評価	0%	
履修者への要望	<p>「地域金融機関経営論」「地域経済論」など、他の関連科目の履修が望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 渡辺幸男・黒瀬直宏・小川正博・向山雅夫 教材名： 『21世紀中小企業論—多様性と可能性を探る（第3版）』（有斐閣，2013年） ISBN:978-4-64-122009-6 2,200円+税
	中小企業の多様性と可能性について、事例をまじえながら描く分かりやすいテキスト。第3版では、新「中小企業基本法」以後の中小企業政策の展開と評価が加わっており、戦後中小企業史の体系的な理解に役立つ。
参考図書	中小企業庁『中小企業白書<2015年版>』（日経印刷，2015年） ISBN: 978-4865790221 3,240円
履修上のポイント	中小企業の「問題性」について、大企業との相対比較や下請制といった文脈より理解する。 中小企業の「発展性」について、ベンチャービジネスや産業集積・地域ネットワークといった文脈より理解する。
レポート課題 1	日本経済の時代背景を「戦後復興期（～50年代前半）」「高度成長期（50年代後半～60年代）」「減速経済期（70年代～80年代）」「不況期（90年代～）」と区分した上で、中小企業の「問題性」と「発展性」について分析・整理し、一つの表にまとめなさい。 留意点： 大企業との相対比較の視点を持って分析すること。
レポート課題 2	工業・商業・サービス業の産業特性を踏まえ、それぞれの業種における中小企業の競争優位性について論述しなさい。 留意点： 工業・商業・サービス業から、それぞれ日本の中小企業1社（計3社）を事例として取り上げて成功要因を分析すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 基本教材1と同じ 教材名：
	同上
参考図書	中小企業庁『中小企業白書<2016年版>』2016年7-9月頃刊行予定
履修上のポイント	旧・中小企業基本法（63年）と、新・中小企業基本法（99年）の違いを理解する。 中小企業憲章（2010年）の理解を深める。
レポート課題 1	日本経済の時代背景を「戦後復興期（～50年代前半）」「高度成長期（50年代後半～60年代）」「減速経済期（70年代～80年代）」「不況期（90年代～）」と区分した上で、それぞれの時代における中小企業の課題と中小企業政策の展開・特徴を整理し、一つの表にまとめなさい。 留意点： 旧・中小企業基本法（63年）と、新・中小企業基本法（99年）の政策理念の違いを踏まえて分析すること。
レポート課題 2	中小企業、特に小規模企業の現代的な存在意義について論述しなさい。 留意点： 中小企業憲章（2010年）ならびに小規模企業活性化法（2014年）の制定とその背景を踏まえること。

科目名	中小企業論特講	担当者	コバヤシ セイジ 小林 世治	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	日本の企業の多くは中小企業である。所属する地域と産業において、「異質多元」と呼ばれる多様な存在形態をもち、個性的な役立ちをなしている。しかし、大企業と比較すれば量的規模だけではなく質的な差異＝格差をもち、それらと対等ならざる関係を強いられている。さらに、「グローバル化」などさまざまな経済環境の激変にさらされ、個々の経営努力のみでは容易に解決のつかない課題を抱えている。こうした日本の中小企業の現状をトータルに捉える視座を得るのが目的である。		
到達目標	<p>前期：中小企業の定義から始まって、日本経済発展の中での位置づけを踏まえ、最近の変化それぞれに対応すべき課題を明らかにする。とくに大多数を占める小規模企業については、中規模以上企業との関係性から、その存続・発展の可能性を考える必要がある。</p> <p>後期：21世紀・日本経済が抱える課題に対して、中小企業がどのような役目を果たしうるか、その可能性を探る。とくに小規模企業を中心に、地域・市民社会における経済アクターとして、さまざまな働きが期待されている点に注目しよう。</p>		
学修方法	<p>日本の中小企業に関する、入門的テキストによる「学習」を踏まえ、最新の資料である『中小企業白書』の「分析」を試みる。つぎに、今後の中小企業の可能性を展望した諸論考を検討することにより、みずからの政策的視野を広げる。</p> <p>レポートの課題は上記それぞれの学修段階で異なるが、「成績評価」の項で示した評価基準に従い、最初の準備から最後の推敲まで、しっかりしたプロセスを踏んで作成すること。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題（1）の草稿は7月末、課題（2）の草稿は8月末をめどに提出する。「草稿」以前の段階でも、必ず1回はメール等で相談されたい。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出すること。</p> <p>後期：教材2のレポート課題（1）の草稿は11月中旬、課題（2）の草稿は12月中旬をめどに提出する。「草稿」以前の段階でも、必ず1回はメール等で相談されたい。いずれの課題も2017年1月課題提出締切日までに最終稿を提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>課題に沿った論理構成か</p> <p>十分に教材を読み込んでいるか</p> <p>参考文献、先行研究などの検索・検討がなされているか</p> <p>脚注などレポートの必要情報が正確に盛られているか</p> <p>今回解明できず残された「問題」が何か、認識しているか</p>
	平常評価	20%	最終稿までの相談
履修者への要望	<p>まず教材それ自体をしっかり読んで、疑問点などをメモしてください。レポートの作成はその次です。ネット検索は適切に行えば「力」になりますが、安易なコピペをすると自分の頭で考えることができなくなります。何がわかって何がわからないのか、自らはっきり区別できるようになるのが到達点です。全てがいつにわかった、ということは絶対ありません。何度でも読み直し考え直し、最後に、本当に「わかった」という感動を味わってください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 植田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一・関智宏・田中幹大・林幸治 教材名： 『中小企業・ベンチャー企業論—グローバルと地域のはざままで[新版]』 (有斐閣, 2014年) ISBN:978-4-641-16431-4 2,400円+税
	既存の中小企業だけでなく起業・ベンチャー(第IV部)にも目配りした, バランスの良い入門テキスト。『中小企業白書』をはじめ参考資料が充実し, そうした資料分析にも触れることができる。レポート課題を行うためのモデルともなろう。
参考図書	中小企業庁『小規模企業白書 2015年版』(ホームページからダウンロード可能)
履修上のポイント	絶えず大企業と対比し, 経営学での「一般的」指針との落差を意識して, 中小企業の実態を把握するよう努める。そうした「問題性」とともに, 「発展性」や可能性にも思いをめぐらそう。
レポート課題 1	中小企業の経営上の「問題点」を, 大企業と比べた格差の原因およびそれとの関係性に関連付け, 整理しなさい。
レポート課題 2	小規模企業の特徴を「参考図書」から探り, 教材で示された中小企業の一般的特徴と, どこがどう違い, どのような政策的配慮が必要か述べなさい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 黒瀬直宏・上原聡 編著 教材名： 『中小企業が市場社会を変える～中小企業研究の社会論的転換～』 (同友館, 2014年) ISBN:978-4-496-05046-6 2,400円+税
	5つのトピックを取り上げ, 中小企業の社会的役立ちを広く「社会経済」の枠組みで示す, 試論集。中小企業が, 市場をベースとし高度に発達した資本主義のもとで, いかに採算に合わないものか, その「不合理性」が言われる。しかし逆に現在の経済システムじたいに問題はないのだろうか?
参考図書	吉田敬一・井内尚樹 編著『地域経済と中小企業—持続可能な循環型地域づくり』 (ミネルヴァ書房, 2010年) ISBN:978-4-623-05640-8 2,800円+税
履修上のポイント	中小企業政策の変遷は基本教材1や, ここでの「参考図書」をみてほしいが, 中小企業とくに小規模企業が本来果たすべき役割は, 狭い市場なり営利事業の範囲で考えてはいけない。人々の「働き」や企業活動とはそもそも何であったか反省し, 政策的視座を再構築しよう。
レポート課題 1	第1章あるいは第2章を要約し, これからの研究課題を考えてみよう
レポート課題 2	第3章～第5章のうち1つを取り上げ, これからの政策課題を考えてみよう